

N. M. （音楽学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、高校生の時に学校のプログラムで 2 週間のオーストラリアに語学研修に行く機会がありました。もちろん 2 週間という短期間では話せるようにはなりませんでした。この語学研修をきっかけに、他国の人と英語を通して交流するというグローバルな空間に魅力を感じ、いつかもっと長期の語学留学に挑戦したいと思うようになりました。そして、大学一回生の時に母がこのセメスター語学留学を提案してくれたので、挑戦することを決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

銀行の残高証明書の用意、コロナワクチンの 3 回接種とその証明書の用意、学生ビザの申請、飛行機の予約など、渡航の為の準備がたくさんありました。

③ 現地到着後

現地に午後 3 時頃に到着し、空港に迎えに来てくれていた PIA スタッフとホストファミリーをすぐに見つけることができました。ホストマザーが迎えに来てくれていたので、車で空港からそのまま家に行きました。家についた後、近くの公園に連れて行ってもらい、そこでホストマザーとたくさん話すことができました。夜ご飯の時には家族全員がそろっていたので、その日のうちにホストファミリー全員に会えました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

PIA は食堂にカフェテリアもあり、フレンドリーな先生方と他の留学生と一緒に楽しく過ごせます。ただ、私が行った期間がコロナ禍だったということや WU（Warner Pacific University）が休みの期間だったということもあり、学校には 15 人程度の留学生と数人の先生やスタッフしかいませんでした。そしてその留学生のほとんどが日本人だったので、他の国からの留学生や現地の学生が学校にもっとたくさんいたらよかったと私は思いました。

個人的に学校の施設としてよかったのは、ピアノがあったことで、それを使えたことです。私は小さいころからピアノをしていて、アメリカにいる間も練習を続けたいと思っていたので、学校でピアノを弾ける場所がないかをスタッフに相談しました。そして、学校の教会にあるピアノと教室にあるピアノの 2 つを貸してくれることになり、決められた時間の中ではありましたが、練習をすることができました。

b. 授業内容・課題・試験

授業内容は、授業についていけないほど難しい内容は全くありません。私はリスニングが苦手だったので、初めは授業についていけるか不安でしたが、先生方の話し方はすごくゆっくりで分かりやすいので、リスニングが苦手な方でも心配ないと思います。課題は毎日出されて量も多いので、課題に加えて何か自習をするということは難しかったです。試験が1タームの中で2回ありますが、普段の授業に参加していれば問題ないです。

c. サービスラーニング・コミュニティサービス（PIA のみ）

選択しませんでした。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア活動

私はサービスラーニングもコミュニティサービスも取っていなかったのですが、ボランティア活動はしていませんでしたが、一度だけ WU の卒業式のスタッフとしてボランティアに参加しました。特に難しいことはなく楽しく働きました。

私の場合は、ホストファミリーがほぼ毎週末どこかへ連れて行ってくれて、遊びに行ったりパーティーに参加したりすることが多く忙しかったので、クラブに入るなどの余裕はありませんでした。

⑥ 現地での住まいについて

私のステイ先は、お風呂の時間や洗濯をしていい時間などの家の決まりは特になく、決まっていたのは毎週土曜日にバスルームと自分の部屋を掃除することだけだったので、比較的自由に過ごせました。朝ごはんはホストファミリーが作ってくれている日もあれば自分で適当に用意する日もありました。作ってくれているときは、ワッフル、マフィン、シナモンロールやスコーンなどを朝から焼いて用意してくれていました。私のステイ先は基本的にキッチンを自由に使えたので、お昼ご飯は自分で用意して学校に持って行っていました。夜ご飯は毎日ホストファミリーが作ってくれて、いろいろな国の料理を作ってくれるので、お米を炊いてくれる日もありました。

通学に関して、私のステイ先から学校は徒歩で15分程だったのでとても通いやすかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

ホストファミリーが3泊4日のグランピングに連れて行ってくれました。グランピングの施設内には、プールや卓球、バレーコートなど色々な娯楽施設があり、たくさんのキャビンがありました。私たちはキャビンには泊まらず、テントを張って3泊しました。今までキャンプをしたことがなく、これが初めてのテントでの宿泊だったのですが、この時は雨だったということもあり私には少し厳しかったです。それでもいい経験になりました。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

イベントとしては、ホストファミリーと一緒に東海岸へ旅行に行ったことです。ワシントン D.C.へ観光に行ったりメリーランド州のオーシャンシティというビーチに行ったり、いい思い出がたくさんできました。

日々の生活としては、ホストファミリーとお菓子を作ったり、近くの公園に散歩しに行ったり、夜に映画を見たりしたことです。日本にいるときはこういう過ごし方をしていなかったので、日常の過ごし方がとても素敵だなと思いました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

私のホストファミリーは親戚同士でよく集まってパーティーをしていました。みんな集まると楽しく盛り上がり、話が止まらなくなります。まだ話すことも十分にできなかった私はその輪に自分から入るのが難しく、居づらさを感じました。家族のパーティーに呼んでもらえるのはありがたいことですが、20～30 人ほどの親戚の集まりの中に英語がまだ流暢に話せない留学生ひとりが参加するという状況は、私にはあまり得意でないことだと感じました。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

私のホストファミリーは、キャンピングカー 1 台と車 3 台を持っていて、高校生のホストシスターは通学で車を使っているときもあり、日本ではない事なので驚きました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

授業の課題でパワーポイントを作ったりワードで文章を書いたりすることがあったので、パソコンは持って行ってよかったです。それから、後から必要になり日本から送ってもらったものは、トレーナーやヒートテックなどの冬服です。春からの滞在で、4 月はもう暖かいと思っていましたが、異例の降雪により冬服が必要になり、その後 5 月いっぱいはまだまだ寒かったです。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、全て少しずつ向上したと感じています。特に TOEIC 用の勉強はしていませんでしたが、留学前と留学後の TOEIC を比べると 100 点ほど上がりました。

語学力に加え、私が一番実感していることは、自分自身の成長です。留学中は初めての経験がたくさんあり、そのひとつひとつを英語環境の中で一人で成し遂げたことが自分の自

信につながり、新しいことに挑戦する力がつきました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学生活において私が心配なことは、日本に帰りたと思うことがあるかもしれないということです。それでも、なぜ留学をしたかったのかという自分の目標を見失わずに、留学生活を楽しんでもらいたいです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後は、音楽学科としての勉強をしていきながら、留学で得た英語力をさらに伸ばせるように勉強を続けていきたいです。将来、自分の職業に英語が使えるといいとは思いますが、使えなくても持っていればどこかで役立つスキルだと思います。何よりも、様々な国の人たちと英語という共通語によって繋がるができるということが素敵なことだと思うので、これからもホストファミリーや留学中に会った友達との交流を続けていきたいです。

V. 写真



ホストファミリーが飼っている、Cora という名前の愛犬です。散歩を頼まれることが多く、時間があるときはよく行っていました。

ホストシスター2人と、スペインから来た私のルームメイトと川に遊びに行った時の写真で



す。彼女がいた3週間は、4人で色々なところに行けたのでとても楽しかったです。

K. S.（社会システム学科・3 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を目指したのは、元々国際系の学科に高校生の時所属していたからです。大学生になり、コロナ禍で思うような学校生活を送れなかったのと、海外に行くことが困難になったため、留学という形で海外にいて勉強したいなと考えるようになりました。

② 留学決定から出発までの準備期間

2 回生の秋に行く予定でしたが、コロナの影響で延期になり、3 回生の春に特例という形で行くことが決まりました。留学が決定してからは英会話教室に通ったり、文法の復習などを行ったりしていました。

アメリカに行くためのビザの手続きが結構大変で、面接のためにアメリカ領事館に行かないといけなかったり、申請料に割とお金がかかったりしました。審査に時間がかかる場合もあるため、なるべく早く済ませておくことをお勧めします。

③ 現地到着後

現地に到着する寸前の乗り継ぎの空港で、書類不備のため別室に呼ばれることがありました。その際携帯の没収やたくさんの質問をされ不安になりましたが、何とか 1 時間ほどで出ることができました。このようなことがあるかもしれないので、乗り継ぎには余裕を持ったスケジュールを組んでください。

ポートランドの空港については、担当の人が待っていて、その後すぐにホストが迎えに来てくれました。ホストの家に到着後は、部屋の案内や自己紹介が行われました。私が到着したのはオリエンテーションの 2 日前だったので、学校生活が始まる前に生活で必要なものなどを揃えることができました。近くのスーパーや、バスの乗り方などは、ルームメイトが教えてくれました。

④ 語学研修期間

a. 施設・環境・スタッフ

学校はこじんまりとした規模の小さい施設でしたが、食堂や図書館がありました。先生方は優しく親身な方が多く、併設されている大学の現地の生徒もフレンドリーな方が多かったです。

b. 授業内容、課題、試験

授業の内容としては、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの四クラ

スで、オリエンテーションの際に実施されるテストの結果で分けられます。途中でクラスの変更の希望もできますが、テストの難易度は高くなるため、オリエンテーションの際のテストで良い結果を出せるようにすることをお勧めします。

毎回の授業後に課題が出されますが、量や難易度は先生によって様々でした。しかし終わらないほどの課題は出されなかったのも、毎日コツコツしておけば十分だと思います。

試験は中間と期末のような形で実施され、トータルが 8 割超えていれば次のレベルに進むことができました。

c. サービスラーニング・コミュニティサービス（PIA のみ）

次項参照のこと。

⑤ クラブ・課外活動・ボランティア活動

サービスラーニングを私は取っていたので最初の二ヶ月は、学校の授業を月曜日から木曜日まで受け、金曜日にサービスラーニングのクラスというスケジュールでした。金曜日は午前中で終わりなのでその後によく遊びに行っていました。

後半の二ヶ月は毎日サービスラーニングの授業としてボランティア先で活動を行っていました。私は合計 4 か所のボランティア先に通っていましたが、どこも楽しく親切な方ばかりでした。ただ、ボランティア先に行くためのバスが場所によっては治安があまりよくなかったり、遠かったりしたので、自分の家からボランティア先までの距離はしっかり確認するべきだと思います。ボランティア先で仲良くなった違う大学の留学生たちとごはんを食べに行ったり遊びに行ったりすることができたので、良い思い出になりました。

⑥ 現地での住まいについて

私の最初のホームステイ先は学校から一番遠いところにあり、息子が四人いる家庭でした。部屋も自分専用であり、デスクやクローゼットも用意されていました。

最初の方はたくさん話す時間を作ってくれたりしていましたが、子供のお世話や育児が大変であったり、ホストマザーのお父さんが亡くなり、2 週間帰省していたため、家にいない時期もありました。慣れてきてからは、ご飯が用意されていない日や、朝ご飯やランチの食事が無いこともあり、上手くコミュニケーションが取れない環境だったため私はホストを変えました。このように少しでも違和感やストレスを覚えたなら我慢せず、すぐにホストを変えてもらうべきだと思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は 6 月の末ごろにありました。その際は、カリフォルニアのディズニーランドに行きました。日本から行くよりも安く早く行けるのでお勧めです。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中楽しかったことはやはり、学校の友達と買い物に行ったり、ご飯を食べたり、PIAの主催するイベントに行った時間です。違う国の方と英語でお話することは、ホスト達と話すよりも気が楽で、同世代との唯一の時間だったと感じます。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中苦労したことは、やはりホストとの関係でした。意思疎通もうまくいかず、付箋やメモで説明されることが多く、直接会話することが難しい環境でした。お金目的のホストも多くいるのが現状なので、ホストとの関係性はあまり期待せずに行くべきだと思います。その他にも治安が悪かったため、夜暗く前に帰る必要があったり、一人で行動することを避けたりしないといけなかったのが大変でした。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカと日本ではたくさんの文化や習慣の違いがありましたが、そこでかなり驚いたのは、日本ほどきっちりしていない点です。バスの代金も機械が壊れているから払わなくていいよとか、オーダーを聞き間違えた際は、間違えて出したものと正しいもの両方渡してくれたりだとか、割と適当な感じで気楽に働いている方が多いのだなという印象でした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

日本から持って行って役に立ったのは、ドライヤーや一週間分のシャンプーリンス、自分に合った化粧品や薬、室内用スリッパなどの日本製の使用に慣れている日用品です。他には、ポートランドは雨が多い地域だったので、雨具を持っていくと買わずに済むのでもいいかなと感じます。ホストが貸してくれる家もたまにあります。ポートランドの人々は雨の日に傘やカップをわざわざ使う文化がないため、基本的に家がないことの方が多いです。

そして、現地の学生からは、催眠スプレーを持ってくるべきだよと言われたことが何度もあったので、治安対策のためにもあれば安心かなと感じます。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は日常生活に必要な最低なレベルまでにはなっていたかなと感じます。わからないことや疑問に思ったことは、すぐに質問し解決できるよう工夫をしていました。バスの中でも割と話しかけられることがあったため、そのような機会には会話の練習だと思い積極的に会話に応えるようにしました。留学前には知らなかった現地での軽い挨拶や、言い回しを学ぶことができたので、よりネイティブに近い表現を習得できたと感じます。留学を通して、何よりも異文化に適応する力、自分の英語力が低くても自信をもって話すことの大切を実感することが出来ました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

これから留学を考えている方はぜひ行くべきだと思います。ただ、楽しいことばかりではなく、思い描いていたイメージとは異なることの方が多いので、そのカルチャーショックを受け入れて、乗り越える力が大切になると思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私はこの留学の体験を生かしてホテルでのフロントとしてアルバイトを始めました。就職先で英語を使いたいというような目標はありませんが、この語学力を低下させないようにこれからも頑張りたいと思います。

V. 写真



ボランティア先で出会ったアフリカ大陸の様々な国からの留学達と仲良くなりました。この後には夜ご飯にも行き、自国についてみんなでたくさん話しました。



2 枚目はロスのディズニーに行った際の写真です。有名なこの観覧車に乗ってたくさん楽しむことができました。



PIA の食堂の写真を掲載しました。こじんまりとした学校でアットホームな空間で、みんなフレンドリーに話しかけてくれます。



最後の写真は、ポートランドのダウンタウンにある橋の近くの写真です。毎週土曜日には、マーケットが開催されたくさんの人でにぎわいます。

K.I.（英語英文学科・3 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

もちろん語学力を伸ばしたかったという思いもありましたが、中学生、高校生の時に 2 週間のホームステイを経験し海外の文化に興味を持ち、長期間で海外に滞在し旅行とは違う海外のリアルを肌で感じてみたかったのがこの留学を決めた一番の理由です。

本当は 2 回生の秋学期に留学をする予定で応募し必要書類も集めていましたが、コロナの影響で中止になってしまったため今回行くことになりました。協定留学も視野に入れていましたが、私は現地の大学で現地にしかない授業を履修したいという思いはあまりなく、語学を学ぶことや現地の文化を学びたかったためこのセメスター語学留学に参加することに決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

語学勉強は学校の英語の授業や、TOEIC 勉強、オンライン英会話を通して学習していました。留学で語学の勉強をしてみると言ってもホームステイ先や学校の先生、友達などとある程度のコミュニケーションをとるため最低レベルの英語は必要だと思ったため、普段から英語に触れることは少なくなかったけれど留学の数か月前からはできるだけ英語に触れる時間をとっていました。

私は 2 回生の秋学期に留学を決めており留学開始の 2 か月前にコロナの影響で中止が決まるまでは航空券以外の必要な書類などは集めていました。そのため今回の留学の準備ではほとんどの必要書類がそろっていたため慌てることなく準備できました。

航空券は渡航の 2 か月前ほどにとりました。帰りの便は正確に日本に帰る日がわからないと思うので便を変更できるものでとるとよいと思います。

③ 現地到着後

コロナの影響で便数が少なく、羽田空港からの直行便がなくシアトル経由の便で行きました。シアトルでは乗り換えまでに 4 時間ほど時間がありとても退屈でした。ポートランド空港に着くと現地の学校のコーディネーターとホストファミリーが待っていてくれました。ステイ先の家までホストファミリーが荷物を運んでくださり家まで送迎していただきました。時差ぼけなどを考慮しプレイスメントテストの 2 日前につくようにしたので現地に着いた次の日はホストファミリーがバスの乗り方や学校の場所を丁寧に教えてくれました。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

キャンパスはこじんまりしていました。学内にはカフェがありましたが、現地の学生が夏休みの期間は閉まっていたのでお昼ご飯は自分でサンドイッチなどを作って持って行っていました。学校のカフェのスペースで放課後課題に取り組んだり友達と話したりしていました。

学校の目の前にバス停があり交通の便では困りませんでした。学校にはジムやアクティビティができるスペースがあり、ジムで運動している友達もいました。私は現地でできた友達と卓球をよくしていました。

スタッフとの距離はとても近くみんな親切でいつも何か困ったことがないか聞いて下さっていました。授業も小人数だったので先生と生徒の距離がとても近くわからないことがあったらすぐに聞くようにしていました。日本人のスタッフもいたので普段の生活について英語での説明が難しい時は日本人のスタッフの方に相談していました。

b. 授業内容、課題、試験

プレイスメントテストでクラス分けがされ、私は Speaking& Listening がレベル 3 でそのほかレベル 4 でした。実際に Speaking& Listening の授業を受けてみてもう一つレベルが上のクラスでもついていけそうだったので再テストを受けレベル 4 になりました。もしプレイスメントテストで実力が発揮できなかったりレベルアップさせたいと思ったりした場合、再テストを受けることをおすすめします。課題はレベルが上がると多くなりますが、それでも十分にこなせる量だと思います。中間試験、期末試験ともに主にテキストからで Speaking& Listening のみプレゼンテーションがありました。

c. サービスラーニング・コミュニティサービス（PIA のみ）

サービスラーニングでは、前半に現地でのマナーを学んだりカバーレターを書いたり履歴書を書いたりしました。先生がしっかり添削してくださりました。基本サービスラーニングをとっている人は 2 か所行けるのですが、私は行った場所の活動時間が少なかったり都合が合わなかったりしたため、追加で 2 か所行くことになりました。私は体力を使うところに多く行っていたのでとても大変でしたが、いろいろな人にも出会うことができたのでサービスラーニングをとって良かったと思っています。しかし場所によってはただ同じことを繰り返したり雑務などをさせられたりする場所もあるのでサービスラーニングを担当してくださる先生としっかり相談して決めるのがよいと思います。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

サービスラーニング担当の先生からいくつかボランティアの情報をいただき、数か所ボランティアをしました。交通の便が悪いなどの理由で行きづらいところもありますが、コミュニティを広げる良い機会になるので積極的にボランティア活動に取り組むとよいと思います。

またカンバセーションパートナーという学校のプログラムに申し込み 1 週間に 1 度ほど現地の人と学校のカフェや町中にあるカフェで会って会話を楽しみました。パートナーの家に招待された際は日本料理と一緒に作りました。とてもいい思い出になりました。

⑥ 現地での住まいについて

ホストファミリーはとても親切でいつも私のことを気に掛けてくれました。ホストファミリーと出かける機会も多く、ホストシスターの大学で授業を受けたり一緒にキャビンに行ったり、外でご飯を食べたりなどたくさんの思い出を作ることができました。朝、昼は自分でご飯を作っていましたが、夜ご飯はホストマザーと一緒に作ったり、みんな日本食が大好きだったので代表的な日本らしいご飯を作ってあげたりしました。食材を買いに毎回スーパーにホストマザーと一緒にに行っていたのですが、私の朝ご飯、昼ご飯に必要な食材は自分で選んでいました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

6 月に 4 日間の休暇があり、シアトルに留学していた高校の時の友達とロサンゼルスで合流し、一緒に旅行をしました。ディズニーランド、ハリウッド、ビバリーヒルズ、サンタモニカビーチに行きました。治安はあまりよくないと聞いていたので常に周りに気をかけながら行動していました。おかげで大きなトラブルはなく楽しい旅行となりました。英語で飛行機やホテルの予約をするのが大変でした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中すべてが刺激的で新鮮でした。学校に行くまでのバスやカフェやショッピングに行った際、運転手や店員との会話でたくさんのことを学びました。ホストファミリーと車でどこかに出かける時も目的地に着くまでたくさん会話をしました。私の知らないことをたくさん教えてくれました。現地でしか聞けない話もたくさんあると思うので英語を上達させるためにも、積極的に人に話しかけるのが良いと思います。また学校で台湾から来た生徒と友達になりたくさん話をしました。アメリカの文化だけでなく台湾の文化も知ることができとても面白かったです。たくさんの場所に行ったことももちろんよい思い出ですがたくさんの人に出会い日本では聞けないいろいろな話を聞くことができたのが私の中の一番の思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

週に一度グランマの家で家族全員集まって夕飯を食べていたのですが、身内の話をしていたり会話のスピードが速かったりと会話についていけなかったり、自分の家ではないので何をしてよいかわからず自分の居場所がないように感じ孤独感に襲われたのがつらかつ

たです。途中からはご飯の準備や片づけを手伝ったり参加できそうな会話は相槌をうつなどして何とか過ごしていました。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

日本人に比べてあまり食に興味がないのか夕飯がホットドックだけ、サラダだけの日がある日もありとても驚きました。また 1 日 3 食しっかり食べるという考えもあまりなくお腹がすいたら何か食べるといった感じでした。スーパーマーケットに行く頻度が低く 1 週間に 1 度ほどでした。家にあるものは何でも食べていいと言われていましたが見慣れない食材ばかりで何を食べたらいいかわからないときがありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

パソコン（課題をするときに使う おもにライティング）

折り畳み傘（急に雨が降るときがある、向こうで打っているものは重たい、値段が高い）

爪切り（日本のもののほうが使いやすい）

サングラス（日差しが日本に比べて強い）

日本食（現地で買うには高い 日本が恋しくなったときに食べていた 会話のネタになる）

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

圧倒的にリスニング力が伸びました。今は海外 YouTuber の動画を流しながら様々な作業をしています。字幕なしでも理解できるので内容がスラスラ頭に入ってくるようになりました。また通学中は海外の Podcast を聞いています。海外の人の考えを知ることができるのでとてもためになります。また、留学を終えてから人と自分を比べることが無くなりました。現地では自分は自分で個性を生かし他人の目を気にしたり他人と比べたりということがありませんでした。人は人で自分の個性を大事にして過ごすようになったと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に行くか少しでも迷っているのなら絶対に行くべきだと思います。こんなに長い間海外に滞在していろいろなことに触れられる時間は大学生活以外だとなくなかないと思います。留学を通してたくさんの新しい発見ができ自分の価値観も変わると思います。しかし留学中は楽しいことばかりではありません。常に頭の片隅に思うようにいかないことや危険な目に遭うこともあるということを置いておいた方がいいと思います。また現地でたくさん英語に触れていてもいまいち自分の英語力に自信が持てなかったり本当に伸びているのか不安になったりすることもあると思います。私もそう思っていました。現地でそれが実感できなくても日本に帰国してから英語に触れてみると留学前より格段に英語力が伸びているのを感じることができると思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

これから外国人観光客も増えてくると思うので留学中に培った英語力を活かして積極的にコミュニケーションをとりたいです。具体的には外国人観光客が来そうな観光地や飲食店でアルバイトをしたり京都案内をしたりしたいです。仕事に英語を使い、外国の方と関わることができたらいいなと思っていますが趣味の一つとして英語の学習も続けていきたいです。

V. 写真



日本食を持って行っていたのでホストファミリーに振舞いました。この写真はそばを食べている様子です。そのほかにもお好み焼き、ハンバーグ、牛丼、肉じゃがなどを作りました。どれもみんな気に入ってくれました。



Spring term と Summer term の間に 4 日間の休みがあったのでシアトルに留学している友達とロサンゼルスに行った時の写真です。

M. S. （英語英文学科・3 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

留学を目指したのは、高校 2 年生で体験した短期留学がきっかけです。高校生の頃にカリフォルニアに 2 週間滞在しましたが、その中で価値観の大きな違いを感じました。この留学を経て、大学生の間に、英語力の向上はもちろんですが、様々な人々に出会い、自身の視野を広げるために必ず長期の留学をしたいという目標を大学入学時から持っていました。新型コロナウイルスの影響で安全面の心配から 2 年生までの留学は見送りました。まだ状況が安定していなく、不安はあったものの、3 年生の春が最後のチャンスだったので挑戦しようと思い応募しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

準備期間では、用意するものがたくさんありました。銀行口座とキャッシュカード、クレジットカードを作りました。またビザの申請をします。インターネット上で必要事項の入力、大使館での面接など全てが英語で行われます。時間と手間がかかりましたが、自分ですべて行えたことは自信につながりました。焦りは禁物なので余裕をもって準備することをお勧めします。航空券は同じ学校に留学に行く友達と連絡を取り合い、数名で同じ便で渡航しました。入国審査などもあり不安もあったので一緒に行くことができて良かったです。

③ 現地到着後

現地に到着すると、PIA のディレクターの先生とホストファミリーが待っていていました。車での移動中は、たくさん質問をしてくれて、自己紹介をしたり、日本からどれくらい時間がかかったか、などを話したりしました。緊張しながらも楽しくおしゃべりをして家に帰ったことを覚えています。現地到着 2 日後にオリエンテーションがあり、テストを受けました。テストは選択式で TOEIC のようなものでした。それによってクラス分けされますが、一度だけ再テストが受けられるので納得がいけない場合は再テストを受験することをお勧めします。

④ 語学研修機関

a. 施設・環境・スタッフ

学校はとてもお気に入りでした。施設は綺麗で清潔感があります。食堂があり、ランチをすることもできます。スタッフの方も感じの良い雰囲気です。期待していたものと大きく違った部分は現地の学生はほとんどいないということです。PIA は語学学校のようなもので、世界からの留学生はいますが、それでもほとんどが日本人でそのほかの学生もアジアから

英語を勉強しに来た人が多いです。日本語を話さない、という意識を持って生活することが英語力の向上に大きく影響すると感じました。また、現地での友達を作るとなると、ほかのコミュニティに参加することが一番だと思います。

b. 授業内容・課題・試験

授業は少人数制で、先生との距離も近い、アットホームな雰囲気です。スピーキング・リスニング、ライティング、リーディング、文法の4つのクラスがあります。それぞれがレベル別で行われるため、極端に難しかったり易かったりということはありません。すべての授業で発言は快く受け入れられるため、わからないことがあればすぐに質問できたり、自分の意見を述べたりすることができます。最初は英語で話すことに抵抗がありましたが、学校が始まって1か月もしないうちに授業中に発言することが当たり前になるようになりました。

課題は毎日あるので基本的には学校が終わってから家に帰り、自分の部屋で取り組んでいました。時々、学校帰りにカフェによって友達と遊ぶこともありました。

試験は中間と期末で2度行われます。授業の内容に基づいて行われるので毎回の授業に真面目に取り組んでいれば大丈夫です。

c. サービスラーニング

この留学プログラムに参加して一番良かったと思っていることがサービスラーニングです。サービスラーニングとは、地域のボランティアプログラムに参加して、単位をもらうというものです。後半の2か月間サービスラーニングをしていましたが、現地の人とかかわることのできる貴重な機会でした。

私はホームレスの人々を支援するシェルターとインターナショナルスクールにボランティアに通いました。ホームレスの増加はポートランドでとても大きな問題ですが、直接ホームレスの人と話したり、ボランティアに参加している人の話を聞いたりして、アメリカの社会がいかに日本と異なっているかを、肌で感じました。人々の助け合いの精神が凄く好きでした。食料や日用品などを寄付することが当たり前のものとしてあり、ボランティアスタッフだけでなく企業、個人でも多くの人が弱者を支える意識が高かったです。

インターナショナルスクールでは日本語を教えました。子供たちの多くは母語が英語あり、日本語は、いま勉強している、少し話せる、くらいのレベルだったので英語で話をしていましたが、日本語や日本文化を通して仲良くなれました。日本のことが好きで、日本語はアメリカでも人気の高い言語ということをたくさんの人から言っていただいて、日本人であることに誇りを持てたことも収穫の一つです。申し込みから通勤まで、学校のサポートを受けつつ一人でやり切れたことも自身の大きな成長につながったと思っています。サービスラーニングの期間中には、同じようにボランティアに来ていた現地の学生とも仲良くなれて、とても充実した時間でした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

学校が紹介してくれるカンバゼーションパートナーという制度を利用していました。これは、地域の方がボランティアとして私たち留学生の週 1 回程度の話し相手になってくれるというものです。私のパートナーは定年退職した女性の方でしたが、週 2 回毎回違うカフェに行ってコーヒーを飲みました。お気に入りの雑貨屋さんや地域のイベントを教えてください、自分たち自身のことを話して毎回 2 時間程度話をしたりしてくれましたが、とても充実した時間を送れました。

⑥ 現地で住まいについて

私はとても素敵なホストファミリーに出会えて、一度もステイ先を変えることなく 4 か月間同じお家でお世話になりました。中年のカップルのお家で、子供やペットはいませんでした。子供、ペットなど、特定の希望がある場合は事前調査の際にその旨を伝えておいたほうが良いです。私は部屋と洗面所を専用で貸してくれていたのも、自分のものを好きに置いたりしていました。一番大きく違いを感じたのは食生活です。慣れない食事が多く、それを伝えるのをためらっていてストレスになっていましたが、好きなものを好き、と伝えることだけでも食の好みを話し合うきっかけになります。

⑦ 長期休暇の過ごし方

留学中にはシアトルと、国立公園があるオリンピックというところに行きました。

シアトルは都会で、スターバックスやアマゾンなど大企業があります。その本社を巡ったり、港町なので海鮮を食べたりして、満喫できました。

オリンピックは自然豊かで、アメリカならではの大自然の中で留学生の友達と二人でハイキングをしました。貴重な体験ができ、とても充実した休暇を過ごすことができました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

サービslラーニング期間中が、とても楽しく、良い経験ができたと思います。学校で勉強しているうちは、先生とホストファミリーのみがネイティブでした。しかし、後半 2 か月のサービslラーニングでは様々な人に出会うことができました。また自分から話したり主張したりしないと周りに埋もれてしまうという環境で、強く自分を持つことが必要でした。その中で小さなことにも疑問を持ち、積極的に会話をしようという姿勢を育むことができました。結果、たくさんの知り合いができ、同世代の友達もできました。自分を持つことの重要さを知れて、人として成長できたと感じています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最も苦労したことは食生活です。ご飯のメニューの種類が少なく、外食にしてもピザかハ

ンバーガーだったので、日本との食生活とはかけ離れていてとてもストレスでした。アジアの食糧がそろったスーパーがあるのでそこでうどんや調味料を買って日本食を作って食べたりしていましたが、日本でもっと料理を勉強しておくべきだったと思っています。

③ 文化、習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカでは自分を持っている人が多いな、という印象でした。些細な事はもちろんのこと、政治に対する考え方や、自分の人生に対する見方など、周りに流されずに軸を持って話すことができているところが、格好良かったし、その中で話をするのが居心地良かったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役に立ったもの

パソコンは必須です。また、教材やノートをたくさん使う必要があるので iPad があってとても助かりました。日本よりも寒暖差が激しく、夏になっても朝晩が冷えるので大きめのダウン、薄手の上着やニット等温かい衣類をたくさん持って行った方がいいと思います。部屋着も温度調節ができるものの方がいいと思います。

② 語学力の向上など、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は明らかに向上したと感じています。特にスピーキングの分野でそれを感じています。初めの頃は、私の話すスピードも遅く、相手に理解してもらうのが難しかったし、何よりも英語で話すことに抵抗があり、自信がありませんでした。しかし帰国直前には、自分の言いたいことを過不足なく、躊躇いなく伝えることができるようになりました。しかしそれ以上に、自分の性格的な成長を感じています。以前に比べて、積極的になんでも挑戦しようという気持ちが強くなっていて、海外の生活をやり遂げたことから自信もつきました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私自身、大学生のうちに視野を広く持てたことはとても貴重な経験だったと思っています。もちろん楽しいことばかりではなく、辛いこと、大変なこともたくさんありましたが、それらすべてが自分の成長に繋がっていると今では思います。私も不安はたくさんありましたが、すべてうまくいく自信はありませんでしたが、なんとかやり遂げることができましたし、何か失敗してもそれらは絶対に無駄になりません。

セメスター語学留学では、国際課のサポートがしっかりしているので、相談しながら準備を進めることができます。素晴らしい経験ができる半年間になると思います。留学を迷っているなら勇気を出して是非挑戦してほしいです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

アメリカに住んでから、日本の良さと、自分がいかに日本という国が好きなのかを再認識できました。それと同時に日本のモノの品質の高さを改めて感じました。その経験から、現在は日系のメーカーに興味を持っています。海外とのつながりがあるところで日本の産業に携わりたいと考えています。

V. 写真



クレーターレイクに学校のプログラムで訪れたときの写真です。学校から様々な旅行に行くことができたのがとても良かったです。この湖はカルデラ湖ですが、驚くほど深い青で、人生で見た湖の中で一番きれいでした。



この写真はホストファミリーと一緒にキャビンに出かけたときの写真です。この道はアメリカを南北に横断しているパシフィッククレストトレイルという道で、メキシコと米国の国境からカナダ国境まで続きます。奥の方に私とホストファミリーのおばあちゃんがいいます。ホストファミリーは家族が仲良しで、おばあちゃんの家にもよく遊びに行きました。そこでハイキングに出かけたり、教会に連れて行ってもらったりもしました。